



令和6年度 西蒲区在宅医療ネットワークの集い総会

身寄りのない人の支援を考える ～支援者として私たちができること～

日時：令和7年3月1（土）
15：00～18：00（14：30受付開始）
場所：カーブドッチホール
新潟市西蒲区角田浜1661

参加費：1,000円
総会終了後、懇親会を開催します。
懇親会参加費：4,000円

講演

①NPO法人身寄りなし問題研究会 代表 須貝 秀昭 氏 「身寄り問題に挑む」



地域包括支援センターに勤務しているときに「身寄り」問題を感じ、平成29年に有志で「身寄りなし問題研究会」を発足し、代表を務める。「身寄りなし」軸にLGBT、依存症、ACP、風俗、生活保護など様々な社会課題の発信に取り組んでいる。一昨年NPO法人化したのをきっかけに本業を退職し100日かけて沖縄から日本最北端宗谷岬まで徒歩で日本縦断しながら「身寄り問題」の啓発活動を行った。



②一般社団法人 生支縁 代表 笠原 友也 氏 「法人後見の活動状況について」

新潟のIT企業へ就職後、体調を崩す。友人達に助けられ「人を支える仕事をしたい」と転職決意。精神保健福祉士の養成校を経て障害福祉に飛び込む。生活介護や就労系、相談支援専門員に従事する中で、成年後見制度の必要性を感じ、精神保健福祉士として成年後見を受任開始。身寄りのない方や成年後見制度の利用希望が増える中で、NPO法人身寄りなし問題研究会 須貝代表と「法人後見」を設立、活動中。

③角田山妙光寺 院首 小川 英爾 氏 「より良い最期に向けたお寺のメニュー」



1975年22歳で第53世住職に就任。その後も大学院で宗教社会学を学び、妙光寺での布教活動のほか各地での講演や新聞・雑誌等への執筆を行う。1989年に永代供養墓『安穏廟』を全国に先駆けて開設、以来全国で葬送の形態が大きく変化した。県内外ほか韓国のソウル大学やアメリカのプリンストン大学等で講演。2017年11月退任して院首に就任。主な著書は毎日新聞日曜版での一年間の連載をまとめた『ひとりひとりの墓』（大東出版社）。

一般演題

- ・「自殺予防ゲートキーパーについて」
新潟市こころの健康センター いのちの支援室 室長 丸山 光子 氏
- ・「西蒲区社会福祉協議会におけるコミュニティソーシャルワーク推進事業について」
西蒲区社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー 伊藤 羽純 氏
- ・「岩室温泉地域の活動」 岩室圏域支え合いのしくみづくり推進員 杉山 光順 氏

参加申し込みについて：別紙参加票を新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲に FAXお願いいたします。申し込み締め切り：令和7年2月19日（水）

<お問い合わせ先>

新潟市在宅医療・介護連携ステーション西蒲（西蒲中央病院地域連携相談室内）

TEL 0256-88-0022 FAX 0256-88-0033

Mail : soudan@misatokai.or.jp

